

平成 27 年度環境教育ネットワーク推進会議 実施レポート

■主催：静岡県 ■運営：ホールアース研究所 ■協力：しずおか環境教育研究会
ラブ・ネイチャーズ

【東部会場】

■日時：2015年8月24日（月）13時00分～16時30分

■会場：愛鷹広域公園（管理事務所内会議室） ■人数：18名

【中部会場】

■日時：2015年8月26日（水）13時00分～16時30分

■会場：静岡科学館る・く・る（イベントホール） ■人数：32名

【西部会場】

■日時：2015年8月28日（金）13時00分～16時30分

■会場：浜名湖ガーデンパーク（体験学習館） ■人数：23名

○主催者挨拶(環境政策課より)

昨年度、本ネットワークが構築されたことにより、各地域でネットワーク団体同士が連携した環境学習会の開催等の成果が見られていること、また更なる連携推進につなげるために今年度の会議の場も有効に活用して欲しい旨、話をしました。

○ねらいの共有～名札づくり

運営を担うホールアース研究所に進行をバトンタッチ。

ホワイトボードにキーワードを記した紙を貼り付けながら、連携は質・量双方の相乗効果が期待できることや、実施の負担軽減、関係者の人材育成に繋がる可能性があることなどを再確認。

昨年度同様、胸と背中にサンドイッチのようにぶら下げる“特大名札”を作成した後、プログラムの核心部分に入っていました。



【西部会場の様子】

○自己紹介と会場施設の紹介

特大名札を首から下げてテーブルごとに自己紹介が始まると、徐々に会場内が和んでいきます。

その後は会場施設の紹介。今年度は会議運営にも「連携」の視点を取り入れるべく、3会場とも“立候補”を募ってみました。各地区から多くの声が挙がり、場所や広さ、日程等の条件が合った3会場を選ばせてもらいました。当日は、自らの施設の特長や環境学習での活用の可能性について、担当者から話をしてもらいました。



【東部会場の様子】

○事例発表

次は、連携型環境教育に関する事例発表です。

【東部地区】

マエダ美化さんと農業・環境・研究所さんが伊豆の国市において実施した環境学習イベントについて発表していただきました。昨年度の当会議で交流が深まったことをきっかけに、双方の得意分野を活かした学習プログラムを作成。集客に苦戦しつつも、無事の実施できたことが報告されました。

【中部地区】

「フードバンクふじのくに」の取り組みについて、静岡県労働者福祉基金協会さんに発表していただきました。まだ食べられるのに廃棄せざるを得ない食品を、それを必要とする人とマッチングする取り組みが、主体や地域の「連携」によって支えられていること、また、福祉・環境・食という幅広いテーマに関わること等が示されました。

【西部地区】

身近な自然を素材にした環境学習を展開している「静岡県シェアリングネイチャー協会」の取り組みについて、県環境学習コーディネーターの荒巻さんに発表していただきました。幼稚園、公民館、大学、企業等々、様々な主体と連携しながらネイチャーゲーム体験や体験指導者の養成などを展開している様子が示されました。



【中部会場の様子】



【西部会場の様子】

○ワークショップ

休憩後は、「各主体の特性を把握するためのワークショップ」を実施しました。

ネットワーク推進・連携促進を実現させるには、“連携相手”のことを理解することが不可欠。企業には企業の、NPOにはNPOの、行政には行政の特性があるはずです。

ワークショップでは、①まず同じ主体に属する人が同じテーブルでグループになり、その特性を整理。②テーブルに一人を残して、残りの方は他のテーブルに移動し、一人残っている人からその主体の説明を受けたり、質問を投げかける。③もう一度、同じ主体の人同士でテーブルを囲み、A4用紙7～8枚に「自らの主体の特性」をキーワードで表現。④代表者が全体に対して発表、というワークを体験しました。

改めて納得したことや、新たに気づいたことなど、それぞれに学びやヒントを得ることができたと思います。



【東部会場の様子】



【西部会場の様子】

○名刺交換会・交流会

今回も、自由な名刺交換や情報交換の時間を設けました。昨年同様、各会場とも、活動紹介のパネルや配布資料をご準備くださった参加者がおり、それらが並べられたテーブル前は有意義な交流の場となりました。

また、運営者からは、活動の支えとなる資金調達の補助資料として、幾つかの助成金情報が掲載された資料が配布されました。



【中部会場の様子】

○事務連絡(今後に向けて)

最後に県庁環境政策課から、今後、より一層の連携事例が創出されることへの期待が寄せられました。まずは、一昨年度から実施されている環境学習フェスティバル（県が各地の環境学習イベントの告知等を支援：1月～2月頃を予定）において、今回のつながりをきっかけに創り出された催し等が、一つでも多く実施されることを望まれます。

○おわりに

本ネットワークは、主体の垣根を越えたゆるやかな連携を「仕組み」として維持していこうという試みで、昨年構築されました。その背景には、環境課題の深刻化に歯止めをかけるためには、各地域での環境学習の推進が重要であるとの認識があります。そのためには、各主体が無理なく継続的に取り組めることが大切で、「連携」はそれを支えるキーワードの一つであると考えています。

昨年のネットワーク発足以降、今回事例発表があったものも含め、複数の連携事例が報告されています。各地で様々な主体が連携し、その得意分野を活かした環境教育活動が盛んに進められるよう、今後ともよろしく願いいたします。



【東部会場の様子】



【中部会場の様子】



【西部会場の様子】

